



市民納涼盆踊り 今昔写真

■ 写真は、昨年と昭和48年の《千歳市民納涼盆踊り大会》の様子を比較したものです。今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催を中止しました。例年、7月中旬のスカイ・ピア&YOSAKOI祭、千歳川噴水フェスティバルを皮切りに8月中旬までのロングランで実施している市民夏まつりのエンディングとして8月20日に千歳市民納涼盆踊り大会を実施しています。盆踊りは、踊り子約1,500人、観客約1,500人（昨年度実績）で今も昔も変わらない夏祭りへの熱き情熱を踊りに乗せて北海道の短い夏を楽しんでいます。来年こそはコロナウイルスとの戦いに勝ち、熱く、楽しく踊りたいものです。

千歳市商店街振興組合連合会 事務局長

ふじもと よしあき
藤本 吉章

あのとき、あの場所

瞬きの点景。

SCENERY OF MOMENT

カメラが光を捉えるほんの一瞬。映り込む人物やものごと。千歳ならではの魅力が、残したくなる風景が、そこにある。

広報ちとせ(第1085号) 令和2年8月10日発行
 ■発行 編集/千歳市企画部 広報広聴課
 〒066 千歳市東雲町2丁目(電話240104 FAX228851)
 ■市ホームページアドレス <https://www.city.chitose.lg.jp/>
 ■印刷/千歳印刷株式会社



7月16日/支笏湖で撮影

■ 今月の表紙

チトセバイカモの白い花が咲きはじめた夏の支笏湖でカヌーを楽しむ関口さん親子。爽やかな風を感じながら、水面にせり出した緑のトンネルをくぐります。息子の成長を父は穏やかな笑顔で優しく見守ります。

■ 特別に市庁舎の屋上に上る機会があり、恐る恐る下を見てみたところ、まらの変貌に驚きました。各所で新しい建物が建っているなとボンヤリ感じはいたのですが、俯瞰で見るとこんなに変わっていたんだなと。子どものころに《まるせんデパート》屋上から見た遠い記憶を懐かしく感じつつ、時の流れを改めて感じました。大人も子どもも同じ感動を共有できるのがカヌーの魅力です。関口さん親子の撮影中、カヌーの上で「父さんの夢は何?」という息子に、「もつ一度海外へ行ってこかな」という父。普段は照れくさくて話せないことも、自然の中では心が解放され、親子の会話も弾みます。ちなみに息子さんの夢は親子2人だけの秘密です。